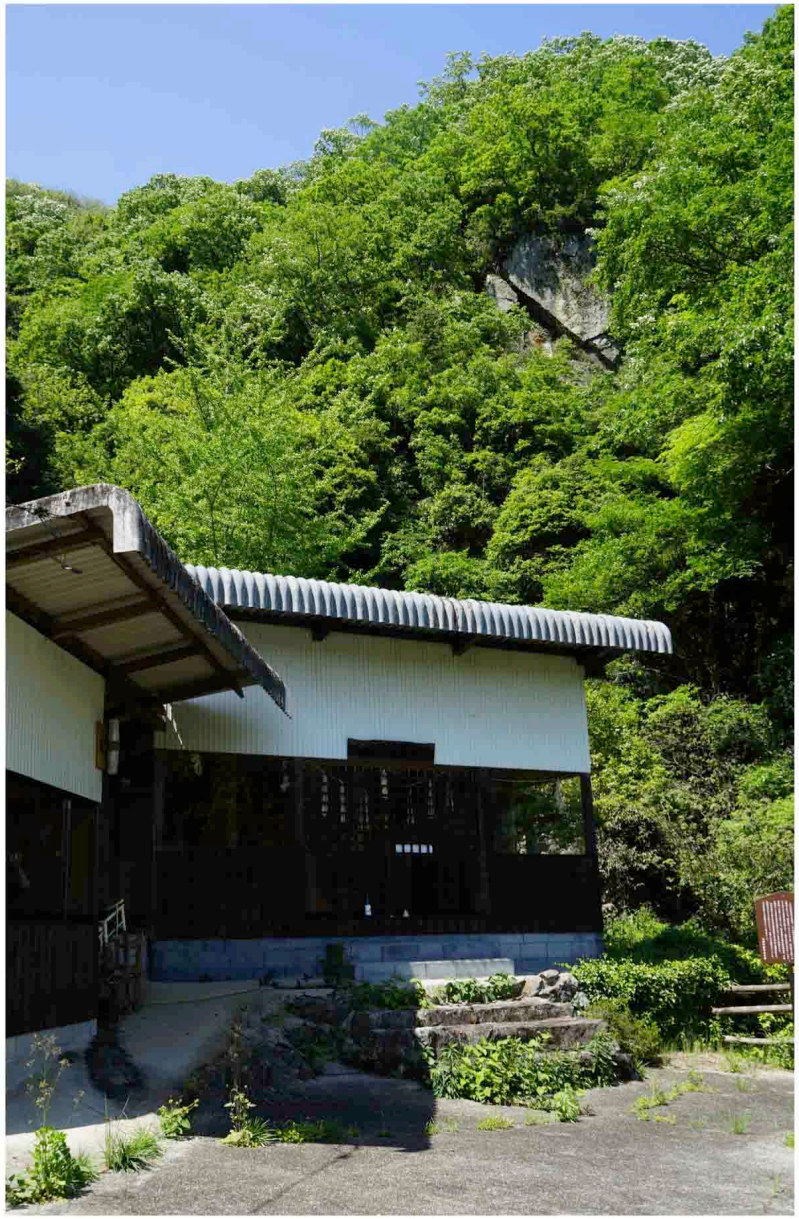
宇内　雄虎の滝探訪（５．５）

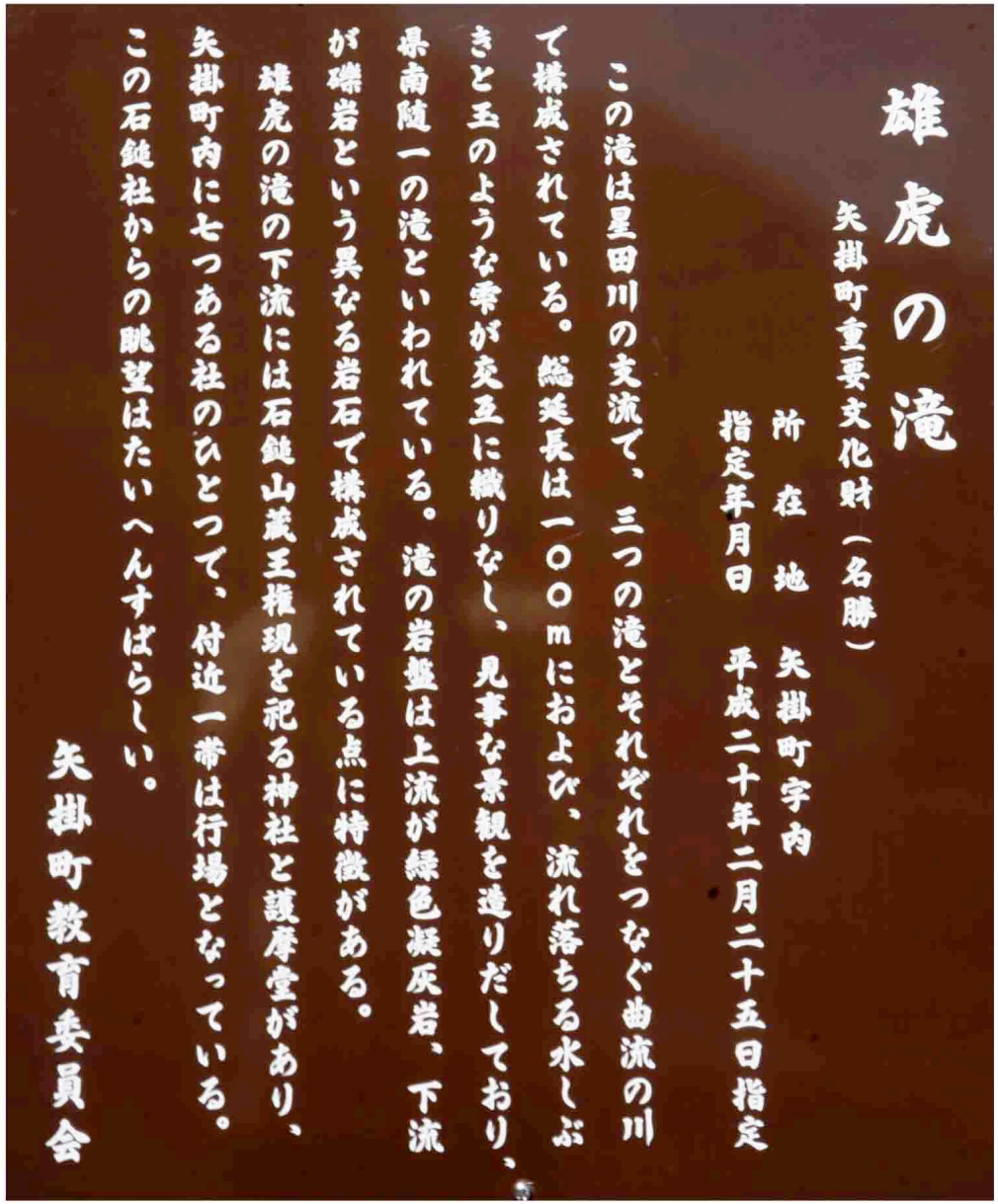
ホタルの里・宇内　あと１ヶ月もするとこの一帯では蛍が飛び交う

村の中央の田んぼのただ中に有って夜道を示す常夜灯。
その右手の山中に三つの大滝が連なる深い谷がある。

土起こしをしただけで田んぼはまだ乾いている。
ほどなくここに豊かな水が張られる。
その日を皆息を潜めて待っている様だ。

瀧のある山中に登って振り返ると蛍の里が一望だ。吉備高原の南外れの山並みが続く。



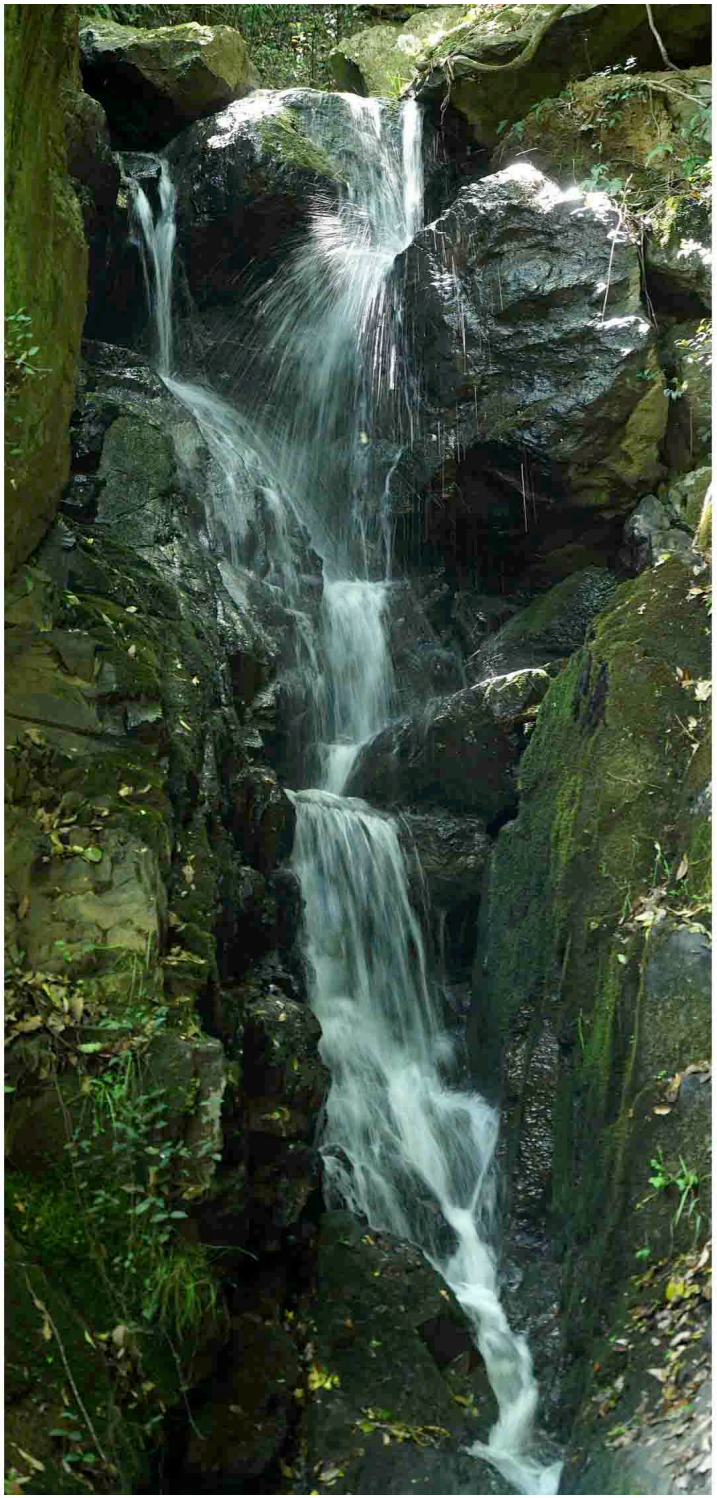


瀧のある谷の入口に石鎚神社がある。
とは言えスレート葺きの屋根のごく殺風景な小屋掛けだ。
しかし、背後の谷に入ると俄然様子は変わり、石鎚の意味が分かる。

谷は狭く、川床は４～５ｍほどしかない。それが鬱蒼たる雑木におおわれている。
従って見通しも展望もきかないままに、最初の大滝８ｍが突然現れる。
上流に人家でもあるのか、水は白く濁り清冽ではない。
しかし、固い緑色凝灰岩の川床をうち、跳ね返る瀧の姿はみごとだ。
沢登りから離れて相当な年月が経つが久しぶりの滝と言う感じがする。
直登は無理！

瀧の高巻き道は左側についているが笹薮におおわれて踏み跡はかすか、しかもひどく急で、その上に枯葉が厚く積もり、足を置くたびにずるずるとずり下がる。あわててあたりの木の根に手を伸ばして体を支えなければならない。この時期は山中ではヘビが大活躍するとも聞いている。たった一人と言うこともあり夢中で登り続けた。ふと右手を見ると、真横に樋を立てかけた様な岩溝があり、そこを水が正に龍の様になって迸り落ちている。優に１５ｍはありそうで、思わず吸い込まれそうだ。これが第２の滝だろうか。

足場の悪い急斜面をさらに登る。一体どこに雄虎の滝があるか？と思い始めた頃にようやく空が開け、目の前に両側を門の様な岩壁で挟まれたゴルジュ状の滝が現れた。
高さほぼ１５m。滝口、中段、下段と３段に分れている。
水が白く不透明で、あたりはじめじめとして滝に入って行く気にはなれないが暗い谷間で、雄虎の滝と呼ぶには十分な圧倒的な躍動感を見せている。



この滝の上流は天文台のある美星。田園地帯とは言え人家や牧場があるせいで谷の水は白濁していた。
他方、尾根を超えた西側には第二星田ダムと言う水がめがある。
ここには澄んだ水が一杯。せめてここが水源であればと思うがまあ無い物ねだり。両方を合わせて楽しむことにする。